

編集後記

●今回のグラフには、民間企業と共同研究を行った「マンホールポンプ技術」をとり上げました。この技術が世に出てすでに10年以上が経過し、全国各地で導入が進むとともに、各メーカーによる新たな技術開発も進んできています。今号では、マンホールポンプ技術について本機構が開催した技術セミナーの質疑応答についても掲載してありますので、ぜひともご一読ください。

●巻頭言は、近年、下水道事業における様々な新技術の導入で話題になっている熊本市の松本富士男都市建設局長に「下水道における地方分権の確立をめざして」と題して執筆していただきました。松本局長はの中で、自らの体験を元に下水道事業への熱い思いを語るとともに、今後の下水道事業には、技術開発における効率的なアイデア実現化が必要だと訴えていらっしゃいます。

●今号では、今年の3月に実施された平成18年度審査証明事業の審査証明書交付式で、楠田哲也北九州大学教授が「技術者の工学倫理-大学における工学教育から見て-」をテーマに行った講演を新たに編集し直して掲載しました。楠田教授は世界中で

体系化されつつある技術者の倫理規定の機能と社会との関係を分かりやすく説明しています。読者の皆様の業務の一助になれば幸いです。

●特集は、平成18年度の建設技術審査証明事業で審査証明が行われた新規20技術の概要を一挙紹介いたしました。下水道管渠の更生工法から高速ろ過装置まで、民間企業の開発した様々な下水道技術がそろっています。これらの技術に興味を持っていただけるような導入口になるよう、わかりやすくまとめました。

●トピックスは、福井県企業局が県中央に位置する丹南地域へ水道用水を供給するために導入した最新型のセラミック膜ろ過システムを取材し、紹介しました。国内最大の膜ろ過浄水システムとして注目の施設です。

●おしらせコーナーには、本年6月に予定している本機構の事務所移転の詳しい内容とともに、新オフィスへのアクセス方法を掲載しました。新オフィスには、訪れた方々に快適に過ごしていただけるよう、様々な工夫が施される予定です。皆様のご来訪をお待ちしています。（編集委員一同）

表紙の写真



次世代の新しい技術への期待と本機構の成長を象徴する意味を込めて、子供の写真をシリーズとして紹介しています。写真のお子さんは、今年度から本機構の下水道新技術研究所長に就任された栗原秀人氏のお孫さん遼太郎くん（3才）です。この写真は3歳の誕生祝いに、両親と双方の祖父母の計7人で真鶴の三石海岸に行った時のスナップだそうです。みんなが勢揃いしているのが嬉しくて、遼太郎くんは終始大はしゃぎ。わかめヘアーでカメラマンのお母さんにも大サービスです。「その辺にあるものを動物や楽器などいろんな物に見立てて遊ぶのが大好きですね。ただ、成長するに連れて、思うように遊んでくれなくなってきました」と嘆くおじいちゃんですが、想像力の豊かな遼太郎くんを目を細めている様子が目に浮かびます。

題字

（財）下水道新技術推進機構会長・葉山莞児（大成建設株式会社代表取締役社長、（社）日本土木工業会会長）の揮毫によるものです。

季刊 **新機構情報** Vol. 15 No. 57
2007年4月〈春季号〉

平成19年4月15日発行 発行者 葉山莞児
編集者 松井大悟
企画者 谷戸善彦

編集委員：中里卓治／鈴木勇／小野田吉恭／目黒享／
鳥海弘／秋葉竜大／長岡英明／後藤太／島原朗世

発行所 **（財）下水道新技術推進機構**

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-22-8 池袋千歳ビル7階
TEL 03(5951)1331 FAX 03(5951)1333